

第7回鳥栖市総合教育会議 議事録

会 議 名	第7回鳥栖市総合教育会議
日 時	平成29年10月11日(水) 開会 午後 1時05分 閉会 午後 3時05分
会 場	市役所3階第1委員会室
公 開 ・ 非 公 開	公開
出 席 者	構成員：橋本市長、天野教育長、古澤教育委員、吉原教育委員、 戸田教育委員、副田教育委員 事務局：白水教育次長、江寄教育総務課長、原教育総務課総務係長 説明員：平川学校教育課長、 木村学校教育課参事兼課長補佐兼指導主事、 中島学校教育課参事兼教育相談係長兼指導主事、 有馬学校教育課学校教育係長
傍 聴	1人
協 議 事 項	◆コミュニティ・スクールの導入について ◆基里小中学校の将来について ◆特別支援教育のあり方について ◆子どもたちの読解力について
発 言 者	内 容
江寄教育総務課長	<p>それでは皆様、改めましてこんにちは。定刻となりましたので、只今より第7回鳥栖市総合教育会議のほうを始めさせていただきます。</p> <p>本日の議題でございますけれども、お手元の次第にありますように、「コミュニティ・スクールの導入について」、「基里小中学校の将来について」、「特別支援教育のあり方について」、「子どもたちの読解力について」、以上4項目となっておりますのでよろしくお願ひいたします。尚、これ以降の議事進行につきましては、規定によりまして市長のほうにお願いすることになっておりますので、橋本市長、よろしくお願ひいたします。</p>
橋本市長	<p>はい、皆さん、こんにちは。今日は総合教育会議にお集まりいただきまして、ありがとうございます。また、委員の皆様には暑い中にも関わらず、各小中学校の運動会に足を運んでいただいて、本当にありがたく思っております。元気な姿を見ていただいて、こちらにも元気になれたらなと思っております。</p> <p>また、北朝鮮問題もですね、なかなか難しく暴発をしないように祈るばかりでございますけれども、ただ、この前も茨城県の鹿嶋市と防災会議をしたんですけども、ミサイルについては何を積んだ</p>

	<p>ミサイルが飛んで来るかもわからないし、その時の何かによって対応は全く違うので、飛んで来ないことを祈るしかないですよという話で終わったんですが、参考までに申し上げますと、鳥栖市内で最も頑丈な建物はサガハイマツでございます。壁厚が2 mから4 mありますので、一番堅牢な建物でございます。何かありましたら、あるいは時間がありましたら、ぜひあそこに逃げ込んでいただくと何とかなるかもしれませんということで、これはまあ、あれです。</p> <p>で、今日は教育長と御相談をしてですね、4つ出ております。それぞれがなかなか重たい課題でもありますので、多分全部は終わらないだろうというふうに思っております、一応プライオリティをつけて上から順番に御意見を賜ってまいりたいというふうに思いますので、よろしくお願い申し上げます。</p> <p>では、まず「コミュニティ・スクールの導入について」ということで、コミュニティ・スクールの全体の説明があるんですかね。はい、じゃあ事務局のほうから説明いただいて御意見を賜ってまいりたいと思います。よろしくお願いします。</p>
平川学校教育課長	(資料に基づき説明)
木村学校教育課参事	(資料に基づき説明)
橋本市長	はい、ありがとうございます。教育長、何か補足がございましたら。
天野教育長	<p>はい、失礼します。今、木村参事のほうからの報告がありましたように、一番問題になった部分がですね、どこの学校のほうに委嘱をするかということで、一応30年からスタートするというものについてはですね、いろんな所でお話をしておりましたけど、基里中校区の2校で来年スタートと。そして平成31年度に田代中校区、そして平成32年度には鳥栖西中・鳥栖中校区ということで、一応32年度までには全ての学校で開始、まあ新学習指導要領、小学校のほうから32年からスタートということもありまして、そこまでには全て12校でスタートしたいというふうなことを考えております。</p> <p>それで基里中校区を選んだ理由は、今までやはり小中一貫のパイオニアとしてしっかり引っ張ってきていただいた部分があって、次の手としての小中一貫教育は、さらに地域を巻き込んだ小中一貫教育の実現というところで、次の手を考えて、2つ目の「基里小中学校の将来について」というところにも関係しますけども、非常に魅力ある学校運営につなげていきたいというふうなことがあります。それと、非常に地域性が高い地区でありまして、基里中学校区では果たしてする必要があるのかと。例えば小学校の場合なんか特に、ということもあるんですけども、そういうところで、そういう</p>

	<p>中ですね、小中非常に一貫進んだ中で組みやすいんじゃないかということで、このコミュニティ・スクールのスタートは基里中校区にお願いするということになっております。</p> <p>先程の定例教育委員会の中でもいろんな意見が出ていたけれども、コミュニティ自体の導入が目的にならないようにですね、やったからいいのではなくてですね。何のためにするのかと。今まで行っていた学校評議員の制度とどこが違っているのかっていうことも含めて、子どもの目線を大切にさせていただいて、望まれる成果というのはこれだけたくさん書いてありますけれども、この中でいかに鳥栖市としてはどういうところが効果が上がるのかということを含めながら取り組んでいきたいというふうに思っております。以上でございます。</p>
橋本市長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>コミュニティ・スクール、教育委員会の中でもこれまでもですね、御意見、御議論いただいてきたと思うんですけども、はい、地域が子どもを育てるといのはなかなかやっぱり薄れてきているということが1つあるかと思います。その意味では、教育長ともお話をしていく中で出てきたのが、やっぱり成功モデルをまずつくりたいといけないということで、一番成功の確率が高いところを手がけてまず成功する姿を見せて、ああ、あれだったらいいねっていうものをやっぱり積み上げていく必要があるだろうということで、ある意味基礎ができている基里小中のところで始めるのがいいんじゃないかということが1点と、あとぶっちゃけ申し上げると、やっぱり校長先生の考え方、大変大きいと思います。</p> <p>それと、コーディネーターですよ。コーディネーターにどなたがつくかで多分全く変わる姿になりますので、コーディネーターを得にくい地域はなかなかやはりできない。かえって学校がかき回されておしまいっていう可能性もあるので、そこはやはりよほど注意しないといけないなというふうに思っております、そこら辺の体制づくりがですね、非常にあるのかなと。</p> <p>あともう1つ、PTAの皆さんとこの地域というの、こう、何て言うのかな、役割分担て言うんですか。そこら辺もやはり、我が子を出している保護者の考え方と、地域から見ると、若干相反するとかですね。違う立ち位置に立ってますので、すり合わない部分もあろうかというふうに思いますので、そこはそれぞれがやっぱり納得をして、一線を持ってやっていくということが必要だろうというふうに思いますので。</p> <p>ざっとこれまで拝見していった中で思っているのはそういうこ</p>

	とでございます。あとそれぞれ御意見をいただければと思います。どうぞお願いします。現役PTA、いかが。
戸田教育委員	<p>はい、午前中の定例会、教育委員会定例会の中でも同じような意見は言わせていただいたんですけども、地域の力を学校の中に活用させるっていう話は大変大事で賛成だと思います。ただ、教育長も言われたとおり、この導入が目的じゃなくて、この制度をどう活用するのか、その準備まできちっとしなきゃいけないのかな。さっき市長は誰をコーディネーターにするのかと校長先生がどう考えるのかとが大事だって言われたんですけど、それプラス、どういうふうにするのか。ま、その準備もしとかなきゃいけないんじゃないかなと思います。</p> <p>具体的には、地域との関わり方をもっと深めようという取り組みだと思いますんで、このコミュニティ・スクールの制度を使えば、例えばこんなふうに地域の人が行事に関われるようになるだとか、こんなふうに部活動のボランティアに関われるようになるだとか、こんなふうに教壇に1日ゲストスピーカーみたいな形で立って授業をしてもらえるだとか、それをどういうふうにしていけばいいのかっていうのを、それは先進地域の勉強なのかはわかりませんが、きちんとある程度、地域に落とす前にこちらでもちゃんと勉強して準備をして、こういうこともできますよという提案をしてあげなきゃいけないのか。もちろんそれぞれの地域が考えることでもあるんですけども、余りにもちょっと大きな話ですので、コミュニティ・スクールという制度をどう使うのかについての準備、提案というのが大事なのかなというふうに思います。</p>
橋本市長	すみません、古澤さん、どうぞ。
古澤教育委員	<p>モデル校となるところは本当に大事だろうと思ってます。失敗は許されないし、次、もう計画が毎年、次年度、次年度、次年度ということであるので、どうしても次、自分のところがついていうところは、「どうでした、1年間やってみて」ということで、校長以下いろんなところで聞かれたりされるでしょうから。大変だっただけでは非常に困るので、特に学校の責任者である校長先生、教頭先生、教務主任、この方々がしっかりと目的と、実践に当たっての課題とか、どう地域を巻き込んでいっていかっていくのかをしっかりと押さえこんでおく必要があるだろうというふうに思っています。そのためには教育委員会からもしっかりとそこら辺の、もう既にいろんな部分で視察にも行きましたし、情報収集されてる部分もあると思いますので、今でももう既にされてるとは思うんですけども、惜しみなくそこら辺の支援はしていかなきゃいけないだろうと思ってます。</p>

	<p>下関に昨年8月に視察にコミュニティ・スクールの関係で行った時に、最初におっしゃったのが、やはりあの負担感、教師、先生方の負担感から来る発言だったんだろうと思いますけど、事業実施に当たっては、先生側から、これは校長教頭の仕事やろという意見が当初出たというふうな話でした。これは往々にして簡単に予想されることです。</p> <p>新しくするとなると、もう今でも大変なのについていうふうなことからそういうふうな意見が出たんだろうと思いますけど、いやそうじゃないんだというところをしっかりとと言えるだけの材料を教えてやっつく必要があるんじゃないかな。同じように、先生方の負担感を取り除いてあげれば、逆に結果として、こういったことで自分たちにもメリットが。やはり導入するからには先生方にも少しぐらいは、やっぱりこれで少しこの分がなくなったね、変わったね、やり易くなったねという部分も、見込める部分については知らせてあげる必要があるんじゃないかな。</p> <p>また、今の学校の評議員制度をそういった形にシフトするという考えですけれども、私が知る限りでは、こういう評議員さんなんかは、基本的にやっぱり評議員として活動されてある方だから、学校と関わることを喜んで、自分の持てること、できることならいいですよというふうに、先々週も学校訪問に行った時でも、私より遥かに先輩の、先生上がりの評議員さんだったと思うけど、もうシャキシャキとしてニコニコとして、地域に貢献できることを誇らしく思っていました。だけれども、また今とは違う形のやり方になるんだったらということで、幾らか不安、負担感とまでは言わないにしてもですね、少しぐらいの不安感をお持ちになるかもしれません。だからそこら辺も学校だけではなくって、各地域には学校の方から説明する形になるでしょうから、しっかりとその点については、そういう負担増ではなくってというような部分の説明も必要なのかなと。</p> <p>そして全てが、子どもたちが今より良い教育環境の下で良い教育を受けられるようなということが実践しやすくなるということだろうと思いますので、丁寧な説明をお願いしたいなと思ってます。長くなりました。すみません。</p>
橋本市長	<p>ありがとうございます。 いかがですか、副田さん。</p>
副田教育委員	<p>はい、今古澤委員も初めのほうで言われましたけれども、先生方の負担が軽減されるようになっていう発言が最初にございました。コミュニティ・スクールになりますと、地域の方が関わられて、そこ</p>

	<p>で先生方の任命権というのも結構その権限が与えられるということも耳にいたしました。もしもそういうふうな色が濃くなってしまうと先生方が、例えばこの先生良くないから異動させてくださいとか、隣のどここの先生が良いからとか、何かそういうふうな、そのコミュニティ・スクールの中で関わられた方たちの私情が入ってくるような、そのようなことがないように、やはりコーディネーターであったり人選であったり、そのところが非常に大切だなというふうに思いました。</p> <p>ちなみに私は、さっき評議員の話がされましたが、鳥栖工業高校で評議員を務めさせていただいた経験がございます。その時に私は鳥栖工業高校に子どもがお世話になった経験も何もございませんで、お話が来た時になぜ私が評議員のご指名を受けたんですかと伺いましたら、たまたま私を御存じの方がいらっしゃって、そして以前、その方がもう退かれるのでバトンタッチは副田さんにと言われたという、そのことが理由で関わらせていただきました。もちろん評議員として関わらせていただきますと、いろいろなことを学ばせていただいて、子どもたちのために貢献できればというそのような気持ちはとても育てていただけたかなというふうに思いますが、私のような、そのような任命のされ方もありますので。たまたま私は教育ということに興味がございましたが、その人選ですね、評議員をしていたからそのままという、それも1つ考えないといけないのではないかなと思っております。以上です。</p>
橋本市長	はい、ありがとうございます。吉原委員。
吉原教育委員	<p>はい、コミュニティ・スクールに関しては非常に、学校運営の懐に入っていくというか、かなり校長先生のですね、運営の話の中に入っていくということで、委員の設定は15名以内とされてあって、今の学校評議員からするとかなり人数も増えるということで、先程から人選もですね、お話もあっていますが、かなり人選にも当然考慮に考慮していかないと、もう本当懐の中に入っていくと、当然良い面も出てくるかと思うんですが、その人選によってちょっと攪拌、良い面で攪拌していただく分はいいんですけどですね。そういった面での教育委員会からのサポートもかなり必要になってくるでしょうし、良い前例というか、どういうふうに関わっていけばそのコミュニティ・スクールが良い面が出てくるというのを、その事例っちゅうかですね、やっぱそういう事例がないと。自分たちも去年その下関と大野城と若干かじったように行っただけですが、それだけではちょっとどうしてもわからないところがありますので、あらゆる情報も収集してですね、そういった情報提供が、折角であれば基</p>

	<p>里小、基里中の校区にですね、出されてより良いものになっていただきたいなと思っているところです。</p>
<p>橋本市長</p>	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>子どもと教職員への負担増みたいな話になると、なかなかちょっと本末転倒みたいな話になるんで。そこら辺のこうコミュニティ・スクールの導入となると、今あるものに足すっていう感覚がやっぱり多分皆さんあると思いますので、そこが今までやってることを少しこう変えるだけよみたいなね。そんな認識で捉えてもらうとすんなりいくのかなと思ったりも。元々がですね、大体が出来ているところなので、あんまりこうかしこまって、コミュニティ・スクールでございましてっていう話では多分ないところにやろうとしておりますから、そこら辺のやっぱり何というかな、最初の抵抗感をどう取ってあげるかっていうような工夫が1つ要るのかなっていう気がしております。</p> <p>以前ですね、アメリカの方とお話をしている時に、アメリカでコミュニティ・スクールやっている中で出てきた問題として大変懸念をしているということがあったのは、やっぱりこれが進んでいくとですね、例えばその方のところは農業が主体の地域にある学校だったんですね。そうした時に、農業をどうせこの子たちはね、卒業したら農業に就くんだから、世界史とかね、そんなものは勉強しないでいいんだと。もっと実学的なそっちをもっと入れろよっていう声が強くなって、結構その声が強くなって、本当は人間として一般常識として備えて欲しいものを教えるのやめて、将来の職業に役に立つようなものを中心に、カリキュラムそのものまで手を入れられたとかですね、そういう話にもなっていたというのがあって、ちょっと問題なんだよねと。やっぱり一定の社会一般の常識っていうのはどうしても身に付けて欲しい。その上での専門性ということでもあるのでということで、やっぱり余りに地域密着型が行き過ぎてしまうとちょっとそういうこともあるということで、もう随分昔ですけど、注意を受けた、あなたも気を付けなさいねっていうことを言われたことがあります。</p> <p>ですから、恐らくは地域の特性を生かしていくというのと、あとその一般的なベースをどうつくってあげるのかというのと、そのこう何ていうのかな、バランスの取り方というですかね。一工夫が要るのかもしれないなという気がして。まあだから、それは崩れてもいいんだということなのかもしれないかもしれませんけどね。崩れるというか、それぞれの地域の個性なんだという言い方なのかもしれないけど、そこは少し我々の中でも一定、ここまでが許容かなみたいな</p>

	<p>のは持っておいた方がいいかもしれないなという気がしておりますけど。</p>
<p>天野教育長</p>	<p>今ベースの部分でいう、市長さんが今言われたんですけどね、そのベースの部分をどうして作っていくかっていうところで、このコミュニティ・スクールが最初こう話出た時、非常に危惧されたのはですね、やっぱりどうしても協議会の方に校長の目指す学校経営計画であったりとか、それから教育課程とか組織編成とか予算とか、そういったことを承認を受けるというふうになるんですね。学校評議員は、今まではただそれに対して意見を述べるぐらいでしたけど、今回はそういうことで承認をして、その承認を得たという形でその基本方針に従って学校運営を行うということになるんです。だからその辺の部分がですね、非常にやっぱりこう心配されるし、さっき言われたように、学校運営委員の考えがどの辺ぐらまでその学校経営に入っていくかというようなところをですね、やっぱりこうかなり心配する面もあるんだろうと危惧する分もあるんだろうというふうに思ってます。</p> <p>で、基里小中は非常に「おらが学校」という思いが強くて、もう一般質問にも、ご存知のように、どうするのかっていうような意見も出るほどの強い思いを持った方が多いということですので。私もこう見てて、あの方も良いな、あの方も良いなっていう方がたくさんおられるということも含めてですね、その辺のところのベースづくりというのを大事にしていかなくちゃいけないというふうに思ってますし、もう一つ逆に言うんですけどね、いろいろ、前もちょっと話をしたんですけど、校長先生方はやっぱり長くて3年ですね。4年もおられますけど、3年、2年で替わります。教頭はもちろんそれに対応して、替わっていくんですけども、校長が替われば学校は良くなるんですよ。良くなるとかいろいろあります。中にはアッって。今までこんなに頑張ってたのにつて。</p> <p>というのを考えると、やっぱり地域がですね、学校を守るというところもあるんですね。しっかり地域で学校を守って、こんな学校を目指してきたんだよって、こんな自分たちはこういう実態の下にやろうとしてるんだよというところは、やっぱり校長と学校運営協議会の委員が皆しっかり話し合いをしながら新しい学校をつくっていく。活性化されたものをつくっていくという部分もあります。</p> <p>そういった面でちょっとなかなか難しい部分もあるんですけど、それについては教育委員会としてしっかりですね、意見を述べるというようなことが大事じゃないかなというふうに思って、その辺もまた基里中学校区はうまくいくんじゃないかなという気持ちも持</p>



	<p>ってます。</p> <p>以上です。</p>
橋本市長	<p>あの、以前ですね、地域の方と話をしていて幾つか御指摘があった中に、我々の鳥栖市の職員も言われるんですけど、地名が分かってない人がいると。校長さんと話をしても、何町の何とか、え、どこですかって言われるということで、もうそれだけでもう話す気がなくなったという。鳥栖市も今職員さんが県外の方も結構増えてきているので、町名を言っても位置が分からない。それがあらかうかも知らない人が増えていって、お前、イロハのイだろうという御指摘がある。</p> <p>ということだと、やっぱり教育長にはぜひ校長先生は地元出身の方を就けていただけるとありがたいな。というのは、やっぱり遠い方だと真っ先に帰るっていうんですね。またこれから話そうと言う、いや、うちもうちょっと時間かかりますからということで。なかなかですね、地域密着と言っても、やっぱりその住んでないということが1つ、やっぱりどうしてもデメリットの部分がありますので、そこら辺をうまくやらないと、校長さんによってそのどうしてもね。時間できちっとやりたいという方は、なかなかその地域の皆さんとのところが。就任なさった時にどう基礎的なことを学んでいたかっていうのはあるんでしょうけども、そこはやっぱり最初に申し上げたように、校長先生の立ち位置というかその考え方というか、そこら辺がやっぱり大変大きな影響を及ぼすんだろうというふうな気はちょっといたします。</p> <p>あとじゃあ、いろいろ学校もご覧いただいたということですから、ここだけはぜひ留意してという、大体今言っていたとは思いますが、加えて何か、ここは言っときたいなという、言っといた方が良かなということがございましたら、御指摘いただければと思うんですけど。</p>
古澤教育委員	<p>今の市長の話には浴いせんけど1点、副田委員の話の中で人事への委員さんの口出しみたいな話が出たかなと思いますけど、基本的にこの委員さん方については、教職員の人事についてはタッチしないんじゃないかなっていうふうに理解をしてみましたけど、理解が正しいかどうか。下関では確か、そういうふうな口出しはさせてませんみたいな話だったように思ってます。</p> <p>これ大きなこと、基本的な大事なことだろうと思います。言えるものと思って参画されてるのと、いやもうはなからそのことについては自分たちはタッチしないんだよっていうのは、非常に大事だろうと思いますので、そのところは下ろす際にはしっかりと御説明</p>

	<p>を。いや人事に口出しされんなら何の面白みもないけん参加しないという方も、中にはひよっとしたらいらっしゃるかもしれないので。それをされると、先生方が妙な良くない緊張感を持たれるんじゃないかなという気がするのが1点。</p> <p>それと、誰を委員さんに選ぶかっていうのは、今の評議員会をそのままシフトっていうのも1つの案でしょうけど、やはりその中で、例えば全てを動かす分についてはやり易いでしょうけど、その中で幾らか取捨選択して漏れた人は、あ、俺落とされたなって思ったりする部分もあるのかなと。しかしながら、新たな取り組みですのでそこところは、ちょっとという方については選考については慎重にすべきではないかな。一旦委嘱してからは途中で切るのなかなか切り辛いというお話も聞いたような気がします。</p> <p>それと委員の任期については、これは国の定めで2年なら2年、何年というのがあったかなと思いますけど。その任期の部分もですね。それと最近は年齢的に、これに関わるとなると、一定フリーな時間がある方となってくると、ある程度高齢の方も多くなるのかなという気がする中で、年齢制限なんかをどうするかとかいったのも、細かい話ですけど押さえておく必要があるのかなというふうに思ったところです。それとあの、更新があるのかないのかとかですね、そういったことです。市長の話とちょっと違いましたけど、また思い出したら次の時に発言したいと思います。</p>
橋本市長	はい。
天野教育長	あの木村参事、運営協議会の規則案を作って、その辺のところについてちょっと。任期のところを少し、うちの方で、はい。
木村学校教育課参事	<p>はい、じゃ先程のことについてちょっと簡単に説明させていただきます。</p> <p>ええとですね、4ページになるかと思いますが、はい。任命につきましては、第8条のところにもこのように大体15人以内ということで考えており、校長の推薦により教育委員会が任命することになっております。で、委員の辞職等により欠員が生じた場合は、教育委員会によって速やかに新たに委員を任命するという事で、特別職の地方公務員の身分ということになっております。</p> <p>第10条の任期です。これはですね、委員の任期は委嘱または任命の日から当該年度の末日まで、再任は妨げないということになっております。そしてあと2番目ですね。第8条第2項の規定により、新たに任命された委員の任期は前任者の残任期間ということで、これはまだ案ではございますけど、このように考えているところでございます。</p>

橋本市長	今の説明で、そこはちょっと問題じゃないかっていうところはございませんか。
古澤教育委員	<p>多分今の話からすると、任期は1年で再任可ということだろうと思います。基本それだろうと思ってましたし、それの方がやり易いのかなっていうふうに思ってます。</p> <p>以上です。</p>
天野教育長	<p>はい。委員15名ということですけど、ここにずっと4ページありますけども、基本的にさっき言ったような感じで、もう本当に基里地区で基里を愛する方というような形になると思うんですけども、ただ私が思うにですね、例えば弥生が丘で学校評議員をこうした時なんかはですね、皆、イエスマンじゃないんですよ。もう皆それぞれ言われるんですね。だから結局、校長をも含めて、どういうふうな形でこれを推進していくかということもここにあるんですけども、基本的に本当、その辺のところはしっかり見ていかなくちゃいけないだろうということで、折角なっただいてですね、はい、はい、はいだけでは困りますからね。そういったこともしっかりこう考えていかないと難しい面もあるなど。特に今度は基里小中やりますから、どういう方がなっておられるのかっていうことも含めてですね、しっかり考えていきたいというふうに思っております。</p> <p>以上です。</p>
古澤教育委員	<p>基里は、つい先日終わりましたが通学区域審議会、私も委員をさせていただいて、一年半位関わらせてもらいました。その中で、当初から年度が替わって地元の区長さんがお代わりになりました。当初の方は、意見を言われなかったんですけど、そこそこ言っているかなというふうに思っていました。次の区長さん、よく意見を言われました。もうこれはしっかり、ここまで言うかというぐらいにしっかり言われました。地元愛に、やっぱり自分が言わなきゃという思いでだろうと思います。やはりそういった意見おっしゃる方、大事にやっぱり生かしていく校長先生の器が必要なのかなというふうに思っております。一言個人的な感想を申し上げます。</p>
橋本市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>ちょっと事務局に質問なんですけど、この第4条のところで、協議会の承認を得るものの中に「教育課程の編成」って書いてある。で、さっきみたいなアメリカの事例を紹介しましたが、例えば学校としてここだけは絶対にやらなければいけないってコアの部分と、あるいはいじってもいい部分と、そういう何かこう考え方ってやっぱりあ</p>

	<p>るんです？それとも、それはもう全部、はいっ、いかがでしょうかって言って、いやこれは多過ぎる、少な過ぎるとかっていう議論が行われていいんでしょうか。はい、どうぞ。</p>
<p>平川学校教育課長</p>	<p>はい、教育課程については、法令等に従って授業時数とかは決まっております。問題は、その中でどんなことをするのかということについては運営協議会の中からですね、意見をいただいたり、地域のこういうところを活かしてやったらこういう児童の目指す姿に近づけるんじゃないかとか、そういう意見をいただきながらですね、そしたら、こういう形だったらこういう方々が地域にいらっしゃるから、この方々の力を借りてこういう活動とかこういう体験できますよというようなことと考えております。ですから、授業の中でも体験活動が必要な授業であったりとか、学校行事の中で地域の方のこういう特技とかを活かした活動であったりとか。そういうことについては、学校が知らないところで地元でこういう人がいるよとかこういう活動してる団体がありますよとか、そういう意見をいただいて学級編制をしていく。基本的には、学校でこういう子どもをつくりたいというのがあった上で、その上で地域からこういう活動も入れたらもっと良くなるんじゃないんですかという意見をいただきながら、承認を得ていくものだというふうに思っております。</p>
<p>橋本市長</p>	<p>そこはあれですね。その運営協議会の委員になってくださった方が言える範囲とかそこら辺は、やっぱり結構明確に示しておかないと、お前ここに書いてあるじゃないかと。何でも俺に物を言わせないんだっていう話は、言いたい人は言いますよね、多分。だからそこら辺の、やっぱりこの中の御意見を賜るもんなんですよという何かね、責任範囲とかそこら辺は、最初に就任いただいた時に一定言っとかないと。そんなことだったらね、さっき古澤さんが言われましたけど、いやならんよっていう人もいるでしょうし、そういう感じはちょっといたします。何かありましたらどうぞ。</p>
<p>平川学校教育課長</p>	<p>私はその4条よりもですね、8条のところに「校長の推薦により」と。校長が推薦しない者は校長の、極端な言い方かもしれませんが、校長のリーダーシップと校長の学校経営ビジョンというのはやっぱりしっかり持つ。これは大前提です。その上で委員さんを、理想かもしれませんが、学校長が選んで推薦するということですから、学校長のビジョンに、こういうのもどうでしょうかとか、提案とかある程度意見はあるかもしれませんが、それはおかしいと言って反対するような方は出てこないというのが前提ではないかなと私は思っております。</p>

橋本市長	やはりその意味では校長先生はキーポイントなんだね、多分。校長先生次第でどうにでも転がる制度ですので、やはりその意味で、こういった鳥栖市内の小中学校の校長先生になるためにはこんだけのしきい値を超えている人でないとできないよっていう、何かやっぱりそういう明示が必要なんじゃないですか。はい、どうぞ。
古澤教育委員	今平川課長が上手に逃れられたっていうか、答弁されましたけど、それは答えにはなっていないというふうに思います。というのがやはり、幾ら校長先生が推薦なさいます。ですから人物まで評価した上で、ああ、この方なら間違いないからということで当然推薦されると思いますけど、委員になって発言される場合には、最初に市長が訊かれた第4条の部分についてはやっぱり踏み込んだ発言されないとも限らないと思いますので、これは教育委員会として、どこまでぐらいが許容されるとかいう部分はしっかりと細かく押さえといて、校長にまで下ろしてやっていく必要はあるんじゃないかなという懸念があります。
橋本市長	はい、ありがとうございます。
天野教育長	<p>貴重な御意見でございます。お聞きいただいたと思っております。</p> <p>結局うちの方も、教育委員会としても教育プランは掲げて、教育大綱の下に教育プランを作り上げて、しっかり鳥栖市の目指す教育課程というのを考えております。はっきり言えば、もう教科「日本語」がそのメインでございますけども、そういった意味で小中一貫、教科「日本語」といったものを中心にやっていくちゅうのがベースです。ここ基本中の基本なんですけど、そういったことも含めてですね、校長には指導しますし、それからさっき学校運営協議会委員に対しては研修を行わなくてはいけないという部分もありますので、そういった目を通しながらですね、この辺についてはしっかりこう情報共有をしながら共通理解を図っていくというようなことを考えてます。</p> <p>それと教育課程の編成に関する事でやっぱり私が思うのは、今後はですね、今度新しい学習指導要領の改訂の中で一番1つの大きな目玉はですね、社会に開かれたカリキュラムを作っていくことがメインになってます。それが一番中心だと思います。社会に開かれたカリキュラムっていうことですから、いろいろな社会、いろいろな地域におられる方に手伝ってもらったりとか特性を出したりとか、そういったことを教育課程の中で、教科「日本語」もその中の1つでもあるんですけども、そういったことをですね、やっていくということが教育課程の編成に関する事につながっていくとい</p>

	<p>うふうに思っていますので、あわせて、鳥栖市の目指す姿についてはですね、しっかりこう指導していきたいというふうに思っております。以上です。</p>
橋本市長	<p>はい、ありがとうございます。この件でちょっとまた御意見があるようでしたら、また後ほどでもチャンスがあると思いますので、それですよろしくお願ひしたいと思ひます。</p> <p>今、大体出していた中ではやはり、この運営に当たって就任いただく時に、やっぱりこの範囲で是非御意見をということが明示されとかなないと、現場がやっぱ苦勞するんじゃないかなというのが1つございますので、そこは是非何らかのこう下敷きというかですね、作っといういただくとやり易いのかなということと、あとやはり先生と生徒にとって負担感が出ないような表現の仕方というか、やり方を工夫していただくとすんなりいくのかなという気がしておりますので、是非そこら辺で御努力いただければと思ひます。</p> <p>先程からずっと出ておりますので、「基里小中学校の将来について」ということでございますが、このコミュニティ・スクールの最初の導入校ということと小中一貫のモデル校ということでもございますけれども、この件について事務局あるいは教育長の方から御説明いただければと思ひます。</p>
平川学校教育課長	(資料に基づき説明)
橋本市長	<p>はい、ありがとうございます。基里小中学校について、義務教育学校を導入すればということでの1つの提案ということなんですが、このベースとして、元々が基里小学校、基里中学校の生徒数が少ないということ、それからあともう1つ、基里小学校から基里中学校に上がる子が減ってきたと。要するに東明、香楠中とかですね、そっちに進む、あるいは私立に行ってしまうということで、抜けてしまうということ。</p> <p>それとあともう1つ、少人数学級で小学校・中学校過ごすので、大変競争に慣れてない。それ以外の鳥栖市内の中学校は複数の小学校から来た子が混ざりますので、そこで一定生徒間で競争が起こってくるので、一定今後これから社会に出ていくための準備がそこでできると。基里のお子さん方はずっと同じ人間関係で中学校まで過ごしてくることがあるので、高校に入ってびっくりしてしまう。いきなりその点数で発表されてということで、非常に戸惑いが多いということがあって、ま、そこはそれで1つ、やっぱり一定の競争環境を作らなければ、このままの生徒数の減少ではなかなか厳しかろうというのがベースでございます。</p> <p>それからあともう1つ、国道3号を今工事したりして、今度鳥栖</p>

	<p>駅の周辺開発をやります。それから、基里小学校・中学校の校区に新しいインターチェンジができます。そうするとその住宅が増えたりなんか諸々変わってくるだろうということもあって、鳥栖駅の東側から駅を挟んで、北小校区とか鳥栖小学校に通ってる子がいるんだけれども、今回駅を手がけるに当たって、例えば鳥栖駅の東側のお子さんはもう基本基里小学校・中学校に行くように誘導できないかということと、あともう1つ、特色ある学校ということの中で、義務教育学校にする際にですね、基里の義務教育学校は校区を市内全域に広げてやって、特色ある教育をすることによって新たな魅力をですね、持った学校ができないかと。</p> <p>いろんな思惑があって、検討していこう、いややっぱそら校区を市内全域にするのはやり過ぎだという話もあるかもしれませんし。で、あと学校区はやっぱり皆さんね、非常にこうこだわりがございましたので。</p> <p>だから鳥栖駅周辺については、今担当課に言っているのは、駅の東については、今は西側の町の町名がこう入り込んでですね、ですからこれを線路で切って新しい町名、例えば鳥栖駅東何丁目とか分かり易い町名にすべきではという考えもあります。</p> <p>ですから基本はやっぱり基里小中の生徒数が非常に減少傾向が強いということで、一定の競争環境を持つとかなないと非常にまずいというのがベースにあって、そこをどう魅力ある学校にするかということの選択肢として義務教育学校にする、校区を変える、あるいは市内全域から通える学校にして特色ある教育をそこでしていく。そういったことで魅力を上げることで、生徒数の減少をできないかなあという御提案なんですけどね。</p> <p>もうフリーに御意見をいただければ。そらおかしかということであれば、それでハイってすごすごと引き下がりますので。</p> <p>どうぞ。</p>
古澤教育委員	<p>今おっしゃったのは東側の部分を新しく町名ということで、それはもう良い機会に、きっかけになるんだろうと思いますので。それはただ単に基里の小中学校対策だけではなくって、北小、鳥栖中の対応にもなります。また向こうの方から北小、鳥栖中に来るとなると、キャパの問題も当然あるわけでしょうから。これを、これこれこういったことで片方は少ないから活性化したい、片方は入りませんからとかいう言い方をすると、保護者の方も、何でというふうな拒絶をされると思いますので、そこら辺の説明は非常に大事ななと思います。</p> <p>1つのタイミングじゃないかなというふうに思いますので、大変</p>

	<p>だろうと思いますけれども、それがいろんな効果を生むような対策とつながればと希望をしているところです。</p>
<p>天野教育長</p>	<p>私も制度が変わってですね、学校教育法の一部の改正ということで小中一貫義務教育学校ができますよ、創りますよって言って、頭に浮かんだのはやっぱり基里小中校区ですね。これ皆さん御存じだと、そうだというふうに思われますけど。</p> <p>しかし全国を見るとですね、ちょっと調べてみたら全国で今年度が48校、そのうち佐賀県は5校、5校やってるわけで。この大町ひじりが昨年からやってるわけなんですけど、意外とこう数が増えてないんですね。それでこう見ていくとですね、ほとんどの学校が統合化の1つの手だてとして義務教育学校を作っていくということなんです。うちが求めているのは魅力のある学校としての義務教育学校を求めている。しかしこの増えない、全国で48校ある中で、やっぱりこの統合化に利用されてそれが使われてるところがあるんじゃないかなということなんですよね。</p> <p>そういうことも含めて考えていくと、やっぱり本当に魅力のある基里中学校を作る1つの手だて、もう究極の小中一貫教育を行うためにはこの義務教育学校を作るべきだというふうに思っています。もしこれができればですね、様々なことがまたできるし、本当に黙ってても、校区のことを考えずにもうしっかり皆さん、小学校から中学校に行かれるんじゃないかなという気もしているわけです。</p> <p>現在の基里小学校と基里中学校、実際にこうシミュレーションしてですね、こう考えてみた時にですね、共に教室が足りないわけですよ。全部でせめて、具体的にになると12学級作らなくてはいけない。特別支援が3学級あれば、15は最低必要だということになると、基里小でも基里中でも、特に基里小のところの空いたところにプレハブ、いや増築しても6学級位作らないとできないという状況にあるのかなということもあるんですけども、こう将来を展望した時にですね、やっぱりこの基里中学校区をいかに魅力のあるものにするか。折角うちの学校では1小学校1中学校ですので、可能性というのはあるので、そういったことを考えるとですね、やっぱりこの義務教育学校を頭の隅に入れて基里地区の方々とも話をしながら、この前実はPTAの方々との懇談会をした時に、PTAの方が思い切って義務教育学校なんかもって言われましたね。やっぱりこう考えておられるんですよ、地区の方も地域の方もPTAの方々も。そういった意味で、今後この義務教育学校についてはじっくりうちも情報を集めながら研究していく価値があるだろうというふうに思っています。</p>



橋本市長	今PTAの方から義務教育学校化をしたらどうかという話が出たという、これは理由はどういう理由でそうすべきだとおっしゃったんでしょう。
天野教育長	もうそれは、本当魅力のあるっていうか、特色を出したいということですね。
古澤教育委員	恐らく基里中学校の通学区域審議会、これの最終日にこれで一応引っ込めますみたいな話になった時に、多分そのPTAの会長さんというのは、その時の小学校と中学校のPTAの代表かなと。最後の最後までそういった視点で、今後も引き続き魅力ある学校となるように取り組んで欲しいみたいな意見をおっしゃってましたので。私もその時に意見言わせてもらいましたが、多分そういう思いからだろうというふうに、地元の子どもを通わせてある親御さん方たちからすれば当然のことかなというふうに思ったところで。
橋本市長	<p>あれですね、この佐賀県内で先行した5つの義務教育学校、その意味ではやっぱり統合というのが先にあってその伝法で使われたというのが実態でして、なかなかその意味では志はあんまり高くないというか、そういう意味ではちょっとね。</p> <p>天野教育長が目指されている義務教育学校というのは全く違うコンセプトのですね、学校にして、まあ市内のどこの学校に通ってる子も行きたくなるような義務教育学校という位置付けなんだろうと。その意味でやっぱり校区を全市内に広げてやっても面白いのかなというのはそういうことなんです。それほどものをやるならやるべきじゃないかなっていう気はしておりますけれど。</p> <p>基里の、特に中学校の保護者の方とお話をすると、やっぱり生徒が少ないので、多人数でやる例えば野球とかですね、それもうできないんですね。部活ができないということで、部活はじゃあもう他の学校行ってやろうとかですね、部活ができないから他所の学校に行くとかそういうことも出てきておりますので、その意味で一定の生徒数を確保してあげるということは、子どもたちの選択肢を広げるという意味でやはり必要なのかなという。人数が多ければ、多種多様な技能を持った先生方も配置ができますので、そこら辺でいろんなものに接する機会も増えるということで。やっぱり少人数学校、まあ良さも確かにある。あると思いますけれども、やはりこれからいろんな特性を持った子を育てていこうとする時には、小さい時にそういうものに接する、多様なものに接するチャンスを作ってあげるということも必要かなという気がしておりますけども。</p> <p>いかがですか、学校の先生から見て。</p>

戸田教育委員	<p>はい、さっきの校区設定の話、以前出てた駅東地区を自由に選択できるエリアにするっていうのは僕自身反対だったんですよ。地域が股裂きになっちゃったり、多い学校、少ない学校になっちゃうんで。</p> <p>それに対して別の意味での、さっき市長が言われた基里、この義務教育学校になる基里小中学校ですかね、を市内全域から自由選択で行けるようにするっていうのはとても良い案だなっていうふうに思いました。さっき言われた多様性確保できますし、数だけではなくていろんなところからやってくる。今その持ち上がりになってしまってるデメリットも解消できるかもしれない。</p> <p>しかしながら心配なのは2つあって、1つは自由だからこそ、小中一貫が進むからこそ、退出入がなかなか難しい。要は、他の学校は小学校があって中学校があるんだけど、途中からそこに転校してくるのも転出するのもなかなか難しい。そういった個別の対応が難しいのかなというのが1つと、自由選択が、鳥栖市内の基里地区以外はこの学校も選べるけれども、基里地区だけはこの学校しか選べないんで、よっぽど皆にとって良い学校を目指すのはそう、そうなんですけども、その選択肢が不公平になっちゃうのがそれ大丈夫なのかなっていうのはちょっと心配しました。</p> <p>でも、基本的には市内全域から子どもたちを迎える学校を目指すというのは良い方向なんじゃないかなっていうふうに、どれぐらいハードルが高いのかは分からないですけども、思いました。以上です。</p>
橋本市長	<p>余り深く考えて言ってませんから、どんどんどんどん意見を言っただいて、そうするとなかなか、戦わせることで良い線が見えてくるんじゃないかなと思っております。</p>
古澤教育委員	<p>市内全域からとなってくると、これは通学区域審議会でも出たと思いますけど、安全の確保、特に中学校の場合はまだしも小学校の場合、どうしても保護者の方が送迎する形にならざるを得ない、距離的な部分が出てくるのが1つじゃないかなというふうに思います。</p> <p>それと、どこかの話の中で競争をどうのっていうふうに話があった時に、例えば基里小学校の子どもさんが、上位の生徒さんが恐らく香楠中学校に行くとすれば、その方たちは当然環境が変わるわけですね。基里小から基里中に行くんじゃなくて新たな学校。だからその子たちはまあ適応力が十分、自分はやれると、頭も良いしというふうな思いで行ってあるんでしょうけど、そこでも毎年同じチャレンジしている子どもさんがいるっていうことからすれば、よそ</p>

	<p>から入れるというのも、その安全さえクリアできれば、学校環境が変わってもやれるというふうになっていけばいいのかなというふうに、言いながら何を言っているのか分からなくなりましたけど、そういったのもあるのかなと思いました。</p>
橋本市長	<p>いかがですか。</p>
副田教育委員	<p>こっちの意見を聞けばこうだなと思いますし、あっちを聞けば。実は私はモデル校には行っておりません、その時はまだ就任しておりませんでしたので。モデル校のそのイメージというのはまだないわけですけども、いや本当にこっちを聞けば良いんじゃないかと、市内全域からと思いますし、本当に分かりません、私も。</p> <p>でも未知なる部分だからこそ、で、よそがまだ行ってない、ただ統合のために行うというそのような意味合いではないからこそ、わくわくしながら先程から皆さんの意見を聞かせていただいております。「日本語」の教科書が鳥栖にはでき、そして今度また新たに統合ではない魅力ある学校づくりというところで、今このような話し合いが行われているというところで煮詰めていって、何か本当にとってもわくわくします。あの学校に行きたいっていうような、何かそんなきらきら輝いた憧れの学校になっていったらいいなと思いますながら皆さんの意見を聞かせていただいております。すいません、はい。はい、以上です。</p>
橋本市長	<p>基里小学校は今年もうそろそろ歩道橋の工事がですね、新しい3号の歩道橋の工事があって、かなりグラウンド削られるんですよ。大変申し訳ないことになっているのと、あと校舎は結構古い方ですよ。ですから国道3号の整備が今年からもう工事に入りますので、そうした時に完全に4車線なってくるんですね。</p> <p>ということもあったりして、じゃあとということで一定国道の整備が見えてきたところで、もう基里中学校側に校舎を建て増して、あそこを1つにしてあげるとするのは1つありかなと。そうすると、あそこだとグラウンドも広いし。それで先程申し上げたように味坂インターができると、あの近辺の道路整備もちゃんとできますので、そこら辺のタイミングがものを言う1つタイミングかな。で、ちょうどそのちょっと後ぐらいに鳥栖駅周辺の姿が見えてくるんですよ。ですからタイミング的には、その校区の問題、地名の問題、あとその学校のハード整備の問題が、その辺りですと割に辻褃が合うということがあるのかなというふうに思っているんですけどね。どうぞ。</p>
天野教育長	<p>希望ですけどね。こうなれば、やっぱり全て基里中学校全部壊してしまっ、お金かかると思うんですけども、いやまあ15、どうせ</p>

	<p>造るんだったらもう取っ払って、15 億位か 13 億位か分かりませんが、ちょっとそれくらい使って、やっぱりバチッと良い新校舎を建てればもういいなと。そこからやっぱりスタートしたいなっていう気はありますね。夢を語るようですけども、そういう気はあります。</p>
橋本市長	<p>言うのはタダですから。ただ、かなり今教育長がおっしゃったような思い切ったことをすればですね、地元の理解というのはしていただけたと思うんですね、やっぱり。で、今小学校がある曾根崎地区はそこから学校がなくなるということに対する抵抗感、ものすごい強いだらうと思っております。そこら辺をどう納得させるかというためにはやっぱりかなりなインパクトをあそこに与えないと、しょうがないっていうことにはならないのかなという感じはしているんですね。ただ、グラウンドが狭くなるとか、それはもう物理的にもうすぐ起こることですので、どうすんだというのは多分次に出てくるだろうと。その次のネタとして、例えばこういうことはどうですかという御提案の 1 つとしてですね、義務教育学校ということが御提案できるという話はあるのかなと。</p> <p>ただあそこも、今、御承知かもしれませんが、歩道橋というのが全国的に問題になっています。老朽化が進んでいるのが 1 つと、あとやっぱり高齢化社会になって、昔は子どものために歩道橋を造るということが一般的だったんですけども、年を取ったら渡らないと。歩道橋は落として横断歩道に変えようという動きがあるんですね。それで、基里地区に対しても、国道 3 号の拡幅に伴って歩道橋どうしましょうか、横断歩道にしましょうか、どうしようかって投げかけをしたら、やっぱり学校があるから歩道橋が要るんだということで歩道橋ということに決めていただいたというのもありますんで。お年を召した皆さんよりも子どもたちの安全を優先すべきだと。いつでも渡れる歩道橋が望ましいんだと。</p> <p>実は基里小学校のところの歩道橋は鳥栖市内で初めてできた歩道橋でね、50 年前に。これは基里中学校の鼓笛隊が渡り初め式をやって、これが歩道橋かっていうことをやった歩道橋なんで、まあ伝統ある歩道橋なんですけども。そういうことでもありますので、やっぱりそこは学校があることに対する誇りとかそういうものはものすごく強くお持ちだと思いますので、そこはやっぱり一定のことはやらないと、そうかという話には多分ならないと思っております。どうぞ。</p>
古澤教育委員	<p>今市長さんが歩道橋の話をなさいましたので関連して言いますと、確かにバリアフリーの観点と、高齢者が増えて障害者の方も街中に今出ておられるということで、もう 10 数年前、久留米の明治</p>

	<p>通り、西鉄駅前にある歩道橋なんかは、私が道路課にいた時にリフトで上がる形にして通り初めもしたりとか、これを国の事業だったんですけど、一緒になってやった覚えがあります。どうしてもという時には、そういったことも地域から要望を出していただいてするのも1つかなというふうに思いました。</p> <p>それと基里そのものは、どういうわけか学校訪問は基里が一番行ってるかなというぐらいに、小学校も中学校も行ってます。で、とても子どもの数は少なくとも、保護者の方もいっぱい見えて、なかなかこれだけの保護者の方がいらっしゃるんだというふうなのを実感できる地域でした。ただ残念なのは、運動会見ると、小学校はいいですよ、中学校は一生懸命子どもも先生もやってる割には、なぜかしら寂しさを感じます。今おっしゃったように、もしも将来的に中学校の横に小学校が、もしも整備でもできた時には、一体感もさらに強まってですね、一緒に運動会開催とかいうこともできるんじゃないかなという期待もあるところです。</p>
橋本市長	<p>まあついでに言えば地区の運動会もね、混ぜてもらおうと随分違うかなという、そこは地区のお年を召した皆さんは希望が強いんですね。何で俺たちも一緒にできないのかちゅうのはあつて。だから地区の運動会と学校の運動会は別々ですけども、義務教育学校に限っては地区の運動会もその中に入れて皆でやるとかですね。これは先生方の負担が増えるだけかもしれませんけど。</p> <p>何か吉原さん、ありましたら。</p>
吉原教育委員	<p>はい、駅東の開発に伴っての学校ですね、編成も考えてある話だろうと思います、この将来についてということで。やっぱり教育問題だけではなかなか解決できないんで、先程から駅東の町名を変えるとか、そういった大きな話の下の中で、やっぱりこの基里校区ですかね、もその小中、校舎も含めた考え方も入れる。ハード面からそういったその地域の話から含めてですね、トータルでやっぱ大きな括りとして考えないと、なかなかその教育の中で、その学校の中のエリアだけでどうにかしようちゅうのは、ちょっと厳しいところがあると思いますのでですね。せつかく市長さんも来られてありますので、東、開発、もう全部ひっくるめて良い方向性ができたらいいのかなとちょっと簡単に思ってます。よろしく願います。</p>
橋本市長	<p>はい、ありがとうございます。駅東のことを何でこんなにしつこく言ってるかという、駅東側に実はもうマンションの計画がありますので、そこら辺の1棟分で多分4~50人は子どもがいますので、そこがどこに行くかという結構大きな問題でして。それが</p>

	<p>1棟になり2棟になりになった時に、結構北小は非常に厳しい状況に陥りますので、その対応もひとつ考えなきゃいけない。</p> <p>で、あと以前もここで話ししたと思いますけれども、去年の鳥栖市内の新築の住宅着工件数は一昨年の2倍ありました。顕著なのが、都市計画区域というのがございます。その中に農地が100ha位残ってたんですけど、そこが住宅に変わっていつている姿があります。</p> <p>ですから、恐らく北小校区とか鳥栖小校区はあんまり減らないんですね。という想定をしております、そうする時にいかにその鳥栖小と北小の圧力を抜いてやるかっていうのはやっぱり結構大きな問題でして、特に。それに東口が絡んで、あそこは今ね、北小に行ってみたり基里行ってみたりしてますので、そこが圧力がもろに北小にかかってくると結構厳しかねという感じがしております。</p> <p>これは近々云々という話でありませんが、一応こういう目論見といたしますか、そういったものが検討中であるということだけ御認識をいただければありがたいなと思っております。</p> <p>ちょっと時間があれですので、特別支援学級について話題を移したいと思っております。では、説明をお願いいたします。</p>
<p>原教育総務課 総務係長</p>	<p>(資料に基づき説明)</p>
<p>中島学校教育課参事</p>	<p>(資料に基づき説明)</p>
<p>橋本市長</p>	<p>はい、説明ありがとうございます。この平成20年代の頭が転換点になって激増してきておりますけど、これは要因としてはどういふことがあると分析をされてるんでしょうか。例えば9ページとか見た時に、何があったんでしょうか。</p>
<p>原教育総務課 総務係長</p>	<p>直接的な原因かどうかは分かりませんが、ちょうどこの頃20年代の初めには香楠中が開校しております、そういう割合で見るとですね、障害のない児童が香楠中に進んで結果として率が上がったというのもあるかもしれないというふうに思っています。</p>
<p>平川学校教育課長</p>	<p>もう1つは平成19年だったと思うんですが、「特殊教育」から「特別支援教育」というふうに国の制度が変わりました。それで、その知的な遅れはないものの、社会生活、学習に困難を感じる子どもたちへの指導に非常に注目を浴びることになってきました。そこからそういうふうな、昔は落ち着きのない子とか言うことが聞けない子とか言って済ませていた子どもたちへの教育的配慮、支援、そういったものが叫ばれるようになって、その子どもたちへの支援指導も必要ということで、そこに着目した行政的な配慮もあったかなというふうに思っております。</p>

<p>天野教育長</p>	<p>今の課長の話ということで結構なんですけども、やっぱりあの1つは特別支援教育担当の細やかな指導というのはですね、本当にこの辺から入ってきてですね、結局個別指導を個別支援計画を立ててやるというふうなことに変わりましたね。</p> <p>それともう1つはやっぱりこう開かれた社会といいますか、もううちの子どもは特別支援、前はですね、私が昔教員した頃なんかは、なるべく特別支援学級には入れないというそういう風潮が強かったんですけど、今はそれよりももっと、その個別支援計画を立ててうちの子どもたちのためにこれだけしてもらえらんだったら、そういうことは関係なく、もう特別支援学級に入りたいと、お願いしたいと。そこで子どもたちを成長させてもらいたいというのが強かったというふうに思ってます。</p> <p>もう1つがやっぱり制度上、それまでは特別支援学級の数、特別支援学級の中で児童数・生徒数何名で1学級、2学級というそのところがですね、今までは種別で3人でないと新しい特別支援学級が作れなかったんですけども、この辺から1人でも、特別支援学級といたら、とにかく病的で作りますとなった時、1名でできるようになりました。ということで、ものすごくその幅ができて、情緒障害にしても知的にしても、いろいろな種別に応じて1名でも作れる学級、県費職員が1人増えることができて特別支援学級が増加できるというふうな、制度上変わったことによってですね、増えていったんですね。県費職員がもらえるもんだから、例えば情緒障害だったけどもこれは病的でいいんじゃないっていったら、病的だったら病的1で病弱学級を作れば、特別支援学級として1つプラスできると。この子は聴覚の障害がちょっとやっぱりあるけども、今までは知的でやったのだけでも、聴覚でちょっと問題あるけども、そっちで特別支援学級を作ればいいんじゃないとか。ということで、種別で非常に広がっていった部分もあって、ガンガンガンガン増えて、それだったらやっぱり、学級としてプラス県費職員を取るためにはそういった診断書を書いてもらえればできるといって、非常に県の学級編制も柔軟に対応できるようになったということで増えていったこともあります。以上です。</p>
<p>橋本市長</p>	<p>はい、ありがとうございます。これは大変冷たいことを言うかもしれないですけど、これは学校、ハードウェアの方を整備する市の方からいうと、これを充実させればさせるほど負担がものすごく増えて、今教室が足りなくなっている状況があります。ここで多分この資料の作り方を見ると、支援員を増やせよということ言われたんだと思うんですけど、増やして充実させればもっと呼び込むんで</p>

	<p>すね。鳥栖の場合にこの特別支援学級に使ってるお金、結構な金額があります。それを対応することによって他の整備が遅れてる状況もあります。ですから、対応がどうあるべきなのっていうのは、やっぱり1つ議論しとかなないといけないんじゃないかなと。これからも今年と来年でトイレの洋式化をいたします。特別教室のエアコン整備もこれから順次進んでいくでしょうと。それにかえて加えて様々なことが出てきます。だから、そこら辺をじゃあどうバランスを取っていくのかということもしないといけないのかなと。特にこの鳥栖辺りが特別支援学級に手厚いという評判がどうもあるようございまして、それが生徒を呼び寄せている傾向もあるのかなという気もしており、どこら辺でバランスを取っていけばいいのかなというのが悩ましいところではあります。実際問題、もう北小とか弥生が丘とか鳥栖小も含め、教室はもうパンパンでございますので、これ以上なかなか受け入れ厳しいですよ、実際問題。</p> <p>ですから、また校舎建てんのかという話にもなってきますので、そういうところは若干悩ましい点はあるということございまして。</p> <p>この市町間の2%台のところから6%台までいるというのはどういうふうに考えればいいんでしょう。分からない、言いたくない、言えない？</p>
<p>中島学校教育課参事</p>	<p>就学に関しては市町の教育委員会が本人・保護者に対し十分情報提供する中で、本人・保護者の意見を最大限尊重し合意形成を行うことを原則としながら、最終的には市町の教育委員会が決定をするということになる。例えば保護者さんが自閉症、情緒障害学級を希望されていると。当然そういう場合には自閉症等であるという診断書を必要としますし、また市の就学相談会に来ていただいたり、私たちが実際子どもさんの様子を、その場だけではなくて実際に幼稚園とか保育園に行つて確認をする中で子どもさんの状態を確認をします。そうやって最終的な決定をしていく。多分この流れというのは他の市町でも同じなんです。そこで差が出てきているわけではないと思います。</p> <p>そういうことを考えるとやはり、実際に希望されるお子さん、保護者さんが非常に多いと。また、それは先程の話とも関係するかもしれないんですけど、非常に鳥栖市の場合というか、今特に若いお父さんお母さん方の意識が非常に変わってきたなっていうのも感じているところです。特に若いお父さんお母さんと話をする時に、就学相談をする時など、おじいちゃんおばあちゃんが反対をされるんですというところがまだ多い所があるんです。ところが、逆に若いお父さんお母さん方は子どものことを考えた時に、やはり今必要なの</p>



	<p>は早いうちから何か手を打っておきたいと、子どものためにですね。そういうことをよく話をされます。そういったところの理解も非常に進んできているというのも1つ原因なのかなという気がしております。</p>
橋本市長	<p>はい、ありがとうございます。実は副田さんの前に就任された深川さんがそういう障害をお持ちの皆さんの教育の専門家でいらっしゃって、深川さんの御意見としてもやはり、小さい時にこそ専門的な教育を受けた方の学級に通ったほうが本人の自立のためには大変役に立つんだと。そこで無理やり普通学級に入れてしまうと、本人も周りも無理をして決して良いことはないですよということで、あとはそんな時に親御さんの納得の問題、そういうクラスに入れるんだということを納得されるまで行くつつのが一番難しいんだということ。子ども、とにかく本人のためを思えば、小っちゃい頃こそ専門的な知識を持った人たちのクラスに入った方が良いんだという御指摘をいただいて、その啓発は随分頑張ってやっていただいたところがあります。これは今御説明あったように、鳥栖は働く場が多いということがあって、そこがやっぱり3~40代の皆さんとその子どもを集めてるというところにもつながっているんですね。</p> <p>あと、ひとり親家庭について言うと、例えば佐賀県の西の方は、ひとり親家庭の比率が多いんです。東部地区よりも高いんですね。ところがどっこい、佐賀県の西部地区は親と同居のひとり親家庭が多いんです。で、東部地区はひとり親家庭は本当にひとり親家庭なんです。だからその、離婚されたりなんかして働かざるを得なくなった時に、鳥栖だったら仕事があるかもしれないということで移り住んできて、完全に核家族の、誰も周りに相談する人がいないひとり親家庭が多いのが東部地区の特徴なのね。ですから、多分同様のところで、親の干渉が、おじいさんおばあさんの干渉がある西部地区と、東部地区はそういうものは一切ない。親の考えだけでいろいろできるということも、やっぱりこの数字の中にあるのかなという感じはちょっとしております。そこは突き詰るといろいろまたあるんでしょうけど。</p> <p>どうぞ。</p>
天野教育長	<p>随分唐津市とか鹿島市とか2.46、2.57ということで低いんですけど、1つ私も教育長会等で話す中では、そういうとこで感じるのは、やっぱり保護者、地域の方の意識の違いといいますかね。そういうのをものすごく感じるわけですけど、1つ私が言えるのは、特別支援学校の所在地というのものもあるんだろうというふうに思っ</p>

ます。唐津のほうに1つできました。そして一番新しいのは今鹿島に1つ特別支援学校ができました。できてないのはですね、5つの事務所でこう見ていった時にですね、ここだけなんですよ。

1つは、うちは中原特別支援学校が前は病弱学校としてあって、それを新しく特別支援学校にしないで、あそこを何でもかんでもできるからということで肢体も入れた。本当は病弱なんです、東佐賀病院があその横にあったので。あそこはどういう子どもが行ってたかという、今まではアトピー性の子どもであるとか、それから喘息の子どもであるとか、そういう子どもたちが、重複の子どもたちもいましたから、そういう子どもたちがそこに行ってたんですけど、今はちょっと変えて。この辺の子どもたち、どこに行ってたかっていうと、大和に行く、金立に行くという形で行ってました。それやけん、ものすごく遠かったですね。それを何年前ですかね、変えて中原の方で全部見ましようということになって。

もう1つが、ご存じのように田代の方に分校ができた。今分校の方はどれぐらいいるかって、30名位いるんですよ。その子どもたちは鳥栖の子どもたちがもう90%以上、鳥栖の子どもたちなんです。しかし今非常に学級が30名切るぐらいなんですけども、もしここがなかったらこの子どもたちが皆、まあ皆じゃないんですけど多くの子どもたちがまた特別支援学級に来てるという状況ですね。だから、県の方にこの前も馬場室長と話をしてお願ひしたのはやっぱり、田代小学校にある特別支援学校の分校をじゃあこれからどうしていくんですかって。広げていくんですかって。場所はありますよ、今のところ隣に敷地がありますから。そこはまた教育委員会とうちと話し合いながらやっていけるんですけどちゅうことなんですけども、なかなか先が見えないですね。

今年からスクールバスをつくりましようということで、今年から運営してスクールバスが動いてますね。もっとそれをこううまくやろうということで、県の方も今年からスクールバスが、各特別支援学校が動き出したんですけど、1つはこの地区に当然、本当は鳥栖地区にあっていいと思うんですよ。特別支援学校が、県立の。そうあればそこに多くの子どもたちが行っただろうと思います。200名位、100名位の子供たち行っただと。その辺のところは昔からどうしても、ここは普通交流学級を中心にやるんだということで先進的な取組みとかもありまして、普通学級でやりますとか特別支援学級でそこで情緒の子どもお願ひしますという、そういう流れあるものだから、どうしてもその流れのまま来てますね。

だから、1つは中原特別支援学校の田代分校辺りをもっとこう広

	<p>くオープンにしたりとか、例えば隣の若基小学校がもうガラガラ、半分以上教室が空いてますから、ああいうところに思い切って特別支援学校なものをつくればね。この辺の子どもはずっと行くと思います。そしたらこの率もグーッと下がっていくというふうな方向だろうというふうに思ってますけど、なかなかその難しいところありますね。以上です。</p>
橋本市長	<p>大体今のがこの辺りの特別支援関係の現状かなと。思いつくところは大体皆さん言っていたと思うんですけど、あとじゃあ今後どうしていくのというのが出てくるんですね。で、だからとにかく今の各鳥栖市内の小学校の教室棟はもうパンパン、なかなかこれ以上増やすというのは非常に厳しい。もう建てるしかないのね。</p> <p>もう1つの解決方法は、今おっしゃったように特別支援学校を県に作っていただいて、そこで一定吸収をしていくという考え方が1つあるだろうとかですね、そういうことなんでしょうね、なかなか。はい。</p>
天野教育長	<p>もう1つ非常に危惧してるのが、この資料の17ページお願いします。今市長さん言われましたように、特別支援学級がいっぱいと言ってもどれだけ、あとマンションにしても戸建てにしてもどれぐらい増えるのかなあというのはあるんですけど。</p> <p>私は小学校の方はですね、そこまで。特別支援の方は頭打ちになるんじゃないかなと思うんですけども、今後は中学校の方ですね。例えば17ページ、今言った17ページなんかは鳥栖中学校が平成34年は27とこう突出してますね。それから、田代中の場合も平成34年以降、共に34年位に突出するんですよ。結局、今小学校の子どもたちがずっと上がって行って、一番ピークの学年がこの辺に来るとこうなるだろう。となると、やっぱり一番心配なのは、あと学級がですね、ここ、今現在は田代中が6かな5かな、特別支援学級は5か6位ですね。鳥栖は5学級から4学級位で、特別支援学級がですね。これがやっぱり今人数的にもちょっと3倍近くなる。なるとやっぱり学級数が増えていくということだから、私はもうその特別支援の中学校の教室がもうパンパンに、本当にパンパンになるというところが非常に心配をしています。以上です。</p>
橋本市長	<p>なかなか、これという解決策がないんですが。何か言いたそうですね。</p>
原教育総務課 総務係長	<p>はい、今教育長から御指摘があったように、鳥栖中と田代中学校で同じ34年度に非常に学級数が多い時期を迎えることとなります。ただ田代中学校につきましては、昨年度増築工事をさせていただきましたので、仮に特別支援学級が増えてさらに学級増が見込まれた</p>

	<p>場合でも、簡易的な間仕切りを入れることで対応が可能だろうというふうに思っています。本当に深刻なのは鳥栖中学校の方がですね、ほんとにもうスペースがないような状況になっております。こちらの方が本当に深刻だなというふうにちょっと思っています。</p>
橋本市長	<p>あともう5年後なんですがどうしましょう。学校建てるのは結局間に合わないよね、もうね。一応、事務局案は。</p>
原教育総務課 総務係長	<p>事務局案というか担当としては、鳥栖中学校の実は普通教室棟ですね、北校舎の1階に図書室が入っております。これを別のスペースに動かせないかなというふうにはちょっと考えております。元々、さらに北側に技術室がございます。そのうちの元々金工室と木工室とあったものが今統合して、技術室として1教室でやっておりますので、もう1スペースが多目的スペースというふうになっておりますので、図書室をこういったところに動かしてスペースを設けるというようなことが可能ではないかなというふうにはちょっと思っております。ただ本当に担当者の個人的な案でして、学校であるとか、教育長、次長含めて協議をしたものではございませんので。そういう何らかないもの、スペースを作るためには今あるものをどこか外に出さなくてはならないなというふうにはちょっと思っております。</p>
橋本市長	<p>はい、ありがとうございます。図書室、中学校の図書室の利用というのは小学校に比べるとどうなんですか。それほどでもないんですか。結構やっぱり使うものなんですか。</p> <p>例えばですよ、どうしてもちゅうならですよ。図書館は全部タブレット端末を置いて電子図書に変えてしまっ、物理的な本はなくすとかですよ。なくはない。ただ物理的な本は大変便利なものですから、あれはなくしたくはないんですけど、最悪そうすればね。何十台か置いとけば、あらゆる本がそれで読めるじゃないですか、ていうのはありますよね。</p> <p>そこはちょっとこれから知恵を絞らないと、学校を造るのは間に合わないし、造ってもたったこの1つのピークだけのために造るわけにはいきませんので、そこはちょっと知恵の絞りどころだと思いますね。</p> <p>何か久留米の御経験なんか。</p>
古澤教育委員	<p>これ、いつかも何かお話ししたかなと思いますけど、市内の東国分小学校でそれこそ重度の障害をお持ちの子どもさんを受け入れをしました。その分を、テレビで流れたんですね。もう翌年から増えてくるわけですよ。おんなじように、寝たようなままの状態でも人工呼吸してる子どもさんが普通の津福の小学校に通ってる中で、そ</p>

	<p>れは全然取り上げなくて、たまたまそっちだけをどういうつもりで対応したか知らんけれども。</p> <p>と、学童もその子たちは、当時は1年から4年まででした。久留米は学童保育と言いますので。1年から4年で、よほど特に理由のある子どもさんについては6年生までというふうな状況だったんですけど、当然入って来られたら、もう卒業なさるまでは対応するわけですね、学童も。そうすると、新たに施設整備を学童の方も、トイレからスロープからいろんなっているようなことで新しく造り、建て増しを別館で造った経験があります。</p> <p>ですから、そこら辺の特に今こう大きく伸びてる原因というのはもう説明きちつとなされました。そういう肢体のどうのこうのというよりも、昔で言う多動とか、ん？というぐらいの部分もあったんじゃないかなと。ただそういった部分については早く対応されると治って復帰される確率も高くなるからという、保護者の方の認識が変わってきてるのかなと。昔だったらやらないのについていうような部分もあるのかなというふうに思いました。久留米の例はそういったことです。</p>
橋本市長	<p>はい、ありがとうございます。一応なんか3時までには終えよというのがありましたが、何かちょっと今回はできませんでしたが、これはもう皆さん資料をお読みいただければいいんですけど、中高生が教科書を読んで理解できているのかと。25%が訳分かってないという、とてもショッキングなレポートがありましたので、その資料をお付けをしております。これは国立情報学研究所の先生が調査された結果でございまして、その方のレポートも写真入りで付けておりますので。こういったこともあって、その意味では「日本語」をやっているという事の裏付けにはなるのかなという気がしております。おかげさまで確か小学生の成績が全国でも上から何番目というぐらい良かったらしいので、少しずつでも成果が出ればなという感じはしております、はい。</p> <p>今日の件は別に、すぐに答えが出るわけではございませんけれども、まあ我々の課題として認識をしている大変重要な事項だということで御理解をいただいて、頭の隅においていただき、また今後とも御意見を賜ればありがたいなというふうに思っております。</p> <p>はい、どうぞ。</p>
古澤教育委員	<p>一点だけ最後に。それこそ一番最初のコミュニティ・スクール、これの導入に関わる、もうこれは確定しているわけですから、これの例えば予算。予算的にはどれだけ想定されるかだけ教えていただければと思ってるんですけど。規則の中に報酬というふうになって</p>

	たけれども、それについては附則が付いてなく、別表がなかったように思います。それと研修会とか諸々あるので、例えば予算編成するにしてもマイナスシーリングじゃないかなというふうに思っている中で大丈夫かなという懸念があるのでお尋ねしています。
橋本市長	ありがとうございます。どのくらいの覚悟で予算確保しようと思ってるかということ。
木村学校教育課参事	はい、今のところ予算計上しているのは、大体その研修費も全部入れてまして、今のところ予算としましては相当なりますね。来年度で申しますと、学校評議員のお金はそのまま、基里小中以外は全部そのままになります。だから基里小中学校だけが大体3倍から4倍ぐらいになるかなと、人数の関係上、考えております。ただ、国からの補助が3分の1、県からが3分の1、市が3分の1と聞いております。県は出さないとこの前言われましたので、市が3分の2という形になるかとは思いますが。補助はあるということで聞いております。以上です。
橋本市長	ただ文科省もですね、数が多いとですね、全部シーリングかけてきますから、そんなに来ると思ったら大間違いなので。ぶっちゃけ幾らなんですか。
天野教育長	しっかり言っとかんね。
木村学校教育課参事	総額でしょ。全部移行した時に。平成30年度が85万5,500円と79万8,000円を足したものです。すみません。
天野教育長	報酬だけやろ。
木村学校教育課参事	報酬だけです、これは。
橋本市長	報酬だけということはそれ以外に研修とかやるんでしょ。
木村学校教育課参事	そこまでは出しておりませんが。
橋本市長	何かの時はちょっと教育長の退職金から前借りするとかっていう。はい、分かりました。 では、今日はありがとうございました。